

第3回 上田地域の高校の将来像を考える協議会 次第【会議録】

日時：令和2年2月13日（木）

午後6時30分～

場所：上田市役所本庁舎6階 大会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

土屋会長）

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

昨年8月に立ち上げました本協議会につきましては、今回で第3回を数え、旧第5通学区の上田市、東御市、長和町、青木村の4市町村の地域における高校の将来像、学びのあり方について、長野県教育委員会に意見・提案することを目的として協議を重ねてまいりました。

第1回会議でご提案をいただきました「アンケート調査」の結果をもとに、第2回会議では委員の皆さまには活発な意見交換を行っていただき、また、アンケート調査に御協力をいただいた上田地域の各中学校からの御意見もお受けする中で、今回、「意見・提案（案）」としてまとめた内容について、まずは事務局から説明を申し上げ、そのあと、皆さまから御意見をいただきたいと思いますと考えています。

それぞれのお立場からの忌憚ない御意見を賜り、当地域の意見・提案が実りあるものとなりますよう、よろしくお願い申し上げます。

3 議 事

(1) 上田地域（旧第5通学区）意見・提案（案）について（事務局：上田市）

資料に基づき事務局から説明

<質疑応答> なし

(2) 意見交換

土屋会長）

それでは、委員の皆さまでの意見交換をお願いしたいと思いますが、集約しました「個別意見」一覧をもとにしての御意見など、一通りお聞きしたいと思いますので、お願いいたします。

<意見交換>

・委員）

2回目の協議会でも出された意見にもあったが、上田地域の中学生が、上田地域の高校で学ぶ環境整備が本当に必要なのか、難しい面もある。校長の立場としては、上田地域の高校に入って学ぶことが幸せだと思うが、学びの多様性を求めるのであれば、流入があったほうが望めるのか、悩ましい問題でもある。事務局案のほうでバランスを考えて表現してもらっているようにも思うが、非常に迷っているところである。

・委員)

生徒数が減少して学校運営が難しくなってきたことを受け、丸子修学館や東御清翔高校で学校改革を進めてきたが、本当に地域の願いに沿ったものとなっているか、懸念もある。今後、さらに少子化が進むと、しなの鉄道線沿いなど、交通の便の良い学校に集中することとなるが、地域の高校のあり方に光を当ててもらい、専門的な特色ある学校を作っていく方向に進むのか、1校の中に普通科も含めてニーズを満たせるようなコンパクトな高校を作って学校運営をしていくのか、どちらにシフトするか課題を検討していく必要があると考える。

授業改善について10年かけて取り組んできたが、やっと教員の意識改革が進んできた。職員1人ひとりに実感を持たせて改革していくことは難しいことであるが、高校側にそれだけのキャパがあるのか、不安に感じているところもある。

・委員)

流入が多いことは、魅力があるという点で良いことでもあるが、受け入れる体制や枠も必要と感じている。一方で、多様な生徒が入ってくる点から、多様なアイデアを活かして、さらに魅力ある学校づくりをしていくことが、上小地域の活性化につながるように思う。

AIの時代が来ることを考えると、これまでもインターネットの普及により授業の形態やライフスタイルが変わってきているが、AIを学ぶことだけではなく、AIを使ってより生活が豊かにするため、どのように使っていくかを学ぶなど、学校の学びを考えていく必要がある。教員についても、単に知識を教えるだけでなく、生徒や社会のニーズに合わせて授業を考え、学校を作っていく教員が必要となってくるように思う。

・委員)

上田地域の高校だけを考えていて良いのかと思うところもある。アンケート調査結果を見ても、流入超過のことや通学時間の問題など、不安に思っているという意見を大事にすべきと思いつつも、色んな子ども達が集まって学べること、また、流入が多いことは上田地域の高校に魅力があるということもあるので、その両者をどうやったら両立するのか、他地域との関係も考える必要があり、難しいところがある。

・委員)

高校では、新学習指導要領の中で求められている新たな学びを中心とした学校づくりを進めているところで、教員の意識改革については途上ではあるが、知識注入型の学びから探究の学びに転換し、教科の中でも行っていくことが位置付けられている。制度が変わったことで、教員の意識も実践の中で培われているものと考えている。

これまでの協議会で出された意見や個別意見一覧の中に、この地域の子どもの期待に応える高校がどうあるべきかという貴重な意見が多くあったが、「意見・提案」の内容では今後の高校の学びのあり方や、高校に魅力を持たせ、どう配置していくかという点では分かりにくいように感じている。例えば、普通科の学校や専門・総合学科の学校、定時制などの具体的な現状を踏まえた提案を入れたほうが、高校としても取組を進めやすいと思う。この地域の高校として、さらに魅力を高めるために「こういう高校を求めたい」という意見も必要と考える。

また、地域連携が重要と考えており、この地で育った高校生が、地域を学び、地域の課題について、どのように解決していったら良いかという探究的な学びを深めることが、将来的に市民として戻ってきて活躍してくれることにつながり、各高校で取り組んでいる地域連携事業についても、さらに新たな取組へとつながってくると考える。

・委員)

基本的なことは、この地に生まれたことや学んだことに誇りを持ち、自信を持って育っていく、そして「メシの食える大人になる」ということが一番大切だと考えている。

県教委から高校改革の新たな取組の説明があり、その中での「望月サテライト校では、登校可能な日を増やす」という提言は、とてもありがたいものと感じている。今回の「意見・提案」の中にある「定時制高校のあり方」のところに「通信制」も含めてもらいたい。近隣では、望月サテライトなども関連が深いものと考えている。

・委員)

長和町では旧第6通学区の高校へ通う子どもが多い状況もある中で、「意見・提案」には切磋琢磨したり、県内全体でバランスをみた改革が望ましいとの記載もあり、この方向で進めてもらいたいと考えている。

また、「学力だけによる選択とならないよう、生徒が主体的に高校を選択できる仕組みづくりの検討を求める」ことが重要であり、子どもの個性に合わせ、多様化する中で選択できる改革が必要と考える。

・委員)

アンケート調査により、生徒や保護者の生の声を掴むことができ、流入超過や通学時間が長くて困っていることなどの意見は大事に考えていかなければならず、旧第5通学区の課題であると考えている。解決すべき課題として、流入超過や通勤時間がクローズアップされたことに大きな意味があると思う。

このほか、公立高校だけで夢を描くのではなく、私立高校も含めて長野県全体の高校教育像を考えるべきとの思いがある。

流入超過の課題を考えるためには、流入元（旧第6通学区）の状況も考える必要があり、最終的には高校の定員の問題が浮き上がってくるものと思われる。流入超過に対応して定員を増やすべきか、少子化に伴い減らすのか、県の高校教育課に委ねられる問題であり、しっかり考えていく必要がある。

大学や専門学校へ進学していく生徒が多くいる中であって、どうしても入口となる「入試」に絞られる現状がある。将来の人生設計に沿うような「あり方」が必要で、理想を求めることに併せ、生徒や保護者の生の声を、高校の教育行政に活かしていくか検討いただきたい。希望と喜びに溢れた中学生15歳の春になってもらいたいと考えている。

・委員)

今後、社会が変わっていくことに対し、高校の教育も大きく変わっていかねばいけない状況の中で、これからの高校のあり方を検討する場所を作ってもらいたいとの話があったように記憶している。生徒や保護者が思っている問題など、このままじゃいけないと危機感を持っているのは先生方だと思われるが、子どもの主体を守りながら道を歩んでもらうために、どういう高校にならなければいけないのに、なぜそれができないかという視点からの議論が、この場所で抜けているような気がしている。

社会の変化に追いつく高校の変わりに関して、どういう風に向かっていくのかという視点で、県教委の考えも入れて、今後の通学区のあり方が議論されても良いものと感じている。

・委員)

アンケート結果を見て、これから高校へ入る中学生と親御さんは「自分の学びたいことを学

べる学校」など希望を持って選んでいるが、高校に入ったあとは「学力に合った学校」を選んでいるというギャップが大きくあるように思われる。入学した高校で落ち着いて3年間を過ごすだけという、危機感がないような印象もあるので、高校教育として生徒のモチベーションをどうやったら高められるか考えていただきたい。

丸子修学館に総合学科が設置されて10年間、良い所や悪い所がある中で、少人数でも良いので普通科を作ることにより、上田市というよりも依田窪地区を愛することで、流入問題もある程度、変わってくるような気がする。

流入過多の状況も良い点があり、他地区の子ども達がいることで考え方の違いに気づくなど、どういう風に切磋琢磨していけば良いかを感じる有意義な機会となり得る。経済的な問題もあるかも知れないが、子ども達が切磋琢磨できる教育環境を整えていってもらいたい。

・委員)

「入口と出口」という捉え方は非常に大事で、どういう子ども達を育てるか、その結果を持ち、入学してきた子ども達の「野心」や「希望」を叶えるため、生徒に寄り添って支える思いがないと、薄っぺらなものになってしまう。高校3年間の中で生徒の特性を育ててもらい、大学や専門学校へ進めてほしいと考えている。

各高校の特長を理解し、生徒を支援してほしい。広域での切磋琢磨も必要であり、より多くの人と関わって影響を受けながら、広く物事を捉えてほしい。受験の不安があるのであれば、それは中学で力をつけられるように持って行かなければならず、義務教育の問題でもあると考えられる。それぞれが、子ども達を支える責任分担をして、子ども達の未来にお手伝いのできる環境を用意することが大事であるとする。子ども達の夢がつけられる高校にしたい。

今年度、東御清翔高校のボランティア部の子ども達の力を借りて、放課後に小学校や上田養護学校を訪問したり、これまでも湯ノ丸の育成会のキャンプに入ってもらったり、田中の街中でお化け屋敷を開くなど、さまざまな面での交流を始めている。地元が、高校生に求める部分を積極的にPRすれば、高校生自身も育ち、地域にも目を向けてくれると考えている。地域からも高校に入り込んでお願いしていく環境を作ることで、子ども達の夢を膨らませることができるものとする。

土屋会長)

高校の先生には、人生における生徒のその後のステップ、さまざまなチャンスに向けて後押しできるような教育、また、子ども達が地域に誇りを持って生きていけるような支援を望みたいと考えています。

委員の皆さまからの御意見を受け、事務局のほうでどのように進めていくか説明願います。

・事務局)

生徒の多様性がキーワードになると考えている。流入超過については他地区でも課題となっているところがある。「生徒数が減少し学校運営が難しくなったため、学校改革が進んできた」というご意見があったが、丸子修学館の総合学科や東御清翔の多部制・単位制については、生徒への多様な学びを確保するために設置したもの。

土屋会長)

丸子修学館への普通科の設置に関する意見も、要望として入れ込むことができますか。

・事務局)

丸子修学館は総合学科であり、純然たる普通科はないが、総合学科では、普通科の学びはできる。

・委員)

多様性ということで、色々な子ども達が集まることができるよう、スクールバスのように、幹線のバス停や最寄り駅まで送迎ができるような応援をすべきと考えている。子ども達の夢が、交通の問題だけで制限されてしまうようなことは、これまでの議論に反する話になってしまう。夢を実現させるため、国や県の補助をもらい、市町村を含めてみんなで応援して問題を解決することが、高校の将来を語るうえで大切な部分と考えているので、検討の中に入れていただきたい。

土屋会長)

さまざまな御意見をいただいたので、事務局のほうでも集約に加えたり、表現を工夫するよう進めていただきたいと思います。

・委員)

生徒が「自分の言葉で話して、人の意見を聞ける」力をつけることが大切であり、自分の意見がきちんと言えて、間違っていれば変えられるような教育を根底に据えていただきたい。産業界としても「強い人間」が育つよう、中学校と高校の両方で連携し、「生きる力」を共通課題として力を入れていっていただくことで、この通学区がもっと強くなれると考えている。

4 連絡事項

事務局から今後の進め方について説明

- ・委員の皆さんからの意見を改めて集約し、最終形の意見・提案（案）を郵送
- ・確認いただいた後、県教委と調整のうえ提出

5 その他

- ・特段の連絡事項なし

6 閉会

土屋会長)

それでは、以上を持ちまして、第3回上田地域の高校の将来像を考える協議会を閉会いたします。本日は、大変にお疲れさまでした。